

# 「柏崎の水」

## 岩上神社の清水

岩上は延宝7年(1679)の記録に「岩神村」と見える。この名前の由来について、白川風土記では「村の北に石の多い小山があり、昔、そこに井戸があった。井戸の側には石筒之男神が鎮座していたため、岩神の名がついた。」と説明している。石筒之男神を祀った神社とは岩上神社であり、ここには清水が湧き出していた。清水は夏日炎熱の際も涸れることがない清泉と謳われたという。

この地域の産土神である岩上神社は、岩神社・イワカミサンとも呼ばれ、上野国(群馬県)榛名山麓の岩神社を分祀したものと伝わる。なお、明治11年に本殿を造営するまで石の祠だった。

岩上神社の建つ小丸山には、紫刀削(なたけずり)地蔵の伝説が残る。

小丸山の近くに弘法大師がなたで削って作ったというお地蔵様が立っていた。地蔵の周りで子どもが遊んでいるのを見たある男が「子どもが地蔵を持ち出して遊んでいる」と思い込み、罰があたってはいけない、と地蔵を小丸山に移した。するとその夜、男は熱が出て苦しむこととなった。山伏に「これはお地蔵様が子どもと一緒に遊ぶのを邪魔した罰だ」と言われたので、地蔵を元の場所に戻すと、男はすぐに回復した。

このお地蔵様は文政5年(1822)に建立された地蔵菩薩像の下に埋められているという。枇杷嶋村郷土誌に、この地蔵菩薩像の事と思しき記述がある。



岩上神社



菩薩地蔵像



岩上神社の裏手 鳥居と貝石が見える

貝石 岩上字小丸山ニアリ文政年中当村若者コノ貝石ヲ堀出シ地蔵尊ノ石塔ヲ立テシヨリ世ニ知ラル

ここに貝石とあるように、小丸山では貝殻のついた石が多く出土する。岩上一帯はかつて海であり、1988年には半田小学校の児童が岩上神社の東方50mの場所でホホジロサメの歯の化石を発見した。明治末期から大正期に書かれた「枇杷嶋村郷土誌」「柏崎文庫」「刈羽郡案内」の岩上神社の項には、「清水あり」「清泉あり」とあるが、それが地名の由来に見える井戸を指すのか定かではない。村の創始にも深く関わる岩上神社は、中越沖地震のため、灯籠が倒れるなどの被害があった。しかし、境内へ続く歩道には真新しい砂利が引かれ、石段には手すりを設置されるなど、神社は忘れ去られることなく地域の人々によって整備されている。

石筒之男神(いわつつのおのかみ)

伊邪那岐命(いざなぎのみこと)が迎具土神(かぐつちのかみ)を切り殺したときに剣の先の血が岩にほとばしりついて化成した神。

「日本の神仏の辞典」(大修館書店)より

参考にした本

「半田・岩上の暮らし」半田・岩上郷土史研究会 編(382頁)

「枇杷嶋村郷土誌」関矢貞作 編(224頁)

「柏崎市立博物館館報No.4 柏崎市立博物館 編(069頁)4)